

令和6年度東北支部総会および講演会の報告

稲川 敬介 秋田県立大学

1. はじめに

令和6年4月13日（土）14:30から17:00まで、東北大学災害科学国際研究所多目的ホールにて、令和6年度東北支部総会と講演会が開催された。本会はハイブリッド形式でおこなわれ、樋口秀氏（新潟工科大学）の司会により、現地でもオンラインでも、両方の参加者が聴講できるよう適切に進められた。

2. 東北支部総会

令和6年4月13日（土）14:30～15:15、東北支部総会が開催され、前年度東北支部長である岩手大学の南正明氏より、令和5年度の活動報告と決算報告がなされた。

令和5年度は、まず、4月に支部総会と秋田典子氏（千葉大学大学院）による講演会を開催した。8月には長岡・新潟見学会を実施し、19名の参加者を得た。11月には、2023年度全国大会を岩手大学で開催し、エクスカッションでは支部幹事の協力により盛岡中心部のまち歩きと東日本大震災からの復興と未来へのまちづくり（宮古市）を実施した。その後、「都市「盛岡」の形成—この魅力はなぜ生まれたか—」をテーマにシンポジウムを開催し、東北の地方都市「盛岡」の魅力に迫った。

令和6年3月には、4年ぶりに対面形式で支部研究発表会を開催した。56件の発表があり、参加者は約80名にのびた。去年まではオンラインのみの開催であったため、現地での活発な議論は、これまで以上に盛会に感じられた。活動報告の後には、決算報告や支部役員報告がなされ、新支部長の東北芸術工科大学の古藤浩氏より、挨拶がなされた。

東北支部の令和5年度は、盛岡での全国大会の開催や、支部研究発表会の対面形式の復活など、例年以上に、活動的な年度であった。

3. 東北支部講演会

支部総会後の15:30～17:00、同じく東北大学災害科学国際研究所多目的ホールにて、東北支部講演会が開催された。講演者は、令和6年3月に秋田県立大学を退職された山口邦雄氏であり、講演題目は「人口動向や経済政策・災害等に翻弄されながら深化した都市計画、今後の展望」である。山口氏は、まず、「都市計画学は、状況依存度の高い学問であり、都市計画そのものは社会的技術であり実践である」と述べた後、都市計画の時代潮流を1. 線引き制度、2. 伝統的建造物群保存地区制度、3. 地区計画制度、4. 都市計画マスタープラン制度、5. 地域マネジメント、リノベーションProjectに分類した。そして、これら潮流のそれぞれが深化し、現在は重層的な計画体系として機能していると述べられた。

また、今後の都市の魅力づくりについては、
・部分最適、全体「不」適合にならぬよう（fallacy of composition：合成の誤謬）
・民の力を活かしつつ、都市全体の持続性の確保へとご指摘された。ご講演全体は、都市計画の変遷のまとめとご自身が実践されたご活躍について、ご自身が生まれた1956年から時代を進めるようにしてお話しされ、聴講を引き込むたいへん興味深い講演であった。



ご講演の様子



街並み再生の取り組み



当日の現地参加者